

アドベント礼拝 2020年11月29日(日)

題 「主があなたと共に」

テキスト：ルカによる福音書1章：26～38節

(聖書の箇所は最後にあります。)

教会の暦では、本日からアドベント・待降節に入ります。ローソクが1本灯っています。4つ灯るとクリスマスです。アドベントは、イエス・キリストの誕生を待ち臨みつつすごす時です。アドベントという言葉は、「到来」という意味のラテン語で日本語では「待降節」と訳されます。クリスマス前の4週間、心の準備をする時で、またキリストが再び来られること「再臨」を、喜びをもって待望する季節にもあたります。

さて今日の聖書の箇所は、「イエスの誕生が予告される」場面です。有名な絵があります。以前住んでいた倉敷の大原美術館にはエルグレコの「受胎告知」の原画がありました。時々観に行きました。

「26:六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。」天使は神様の働きを伝える者で、旧約聖書の時代から登場しています。ガブリエル、ミカエル、ラファエル、ウリエルなどなど。

「天使学」というものもあるようです。天使ガブリエルは、イスラエルの田舎のナザレに住むマリアのところに来たのです。「六か月目」とは、天使ガブリエルが祭司ザカリアにあらわれ、妻のエリサベツ、エリサベトが身ごもることを知らせます。二人は老年で、神に仕える祭司であるのに子がないということで当時人々から批判されることがあったようです。ですから二人には辛い思いもあったことなのでしょうが、子が産まれるとの約束の言葉を天使から聞いたのです。その子があの洗礼者ヨハネです。二人は驚き大きな喜びに包まれます。天使ガブリエルがその知らせを伝えて六か月目に、乙女マリアの所に神の子イエスの誕生の予告をしに来たのです。この関係を見ると時、神さまの救いの計画は歴史においてつながっていることを覚えます。すぐには分からなくても、イエスさまの誕生は昔から預言されていたと聖書は伝えてくれているのです。このマリアという言葉は、当時の言葉ヘブライ語ではマリヤムといいます。ルカ福音書をまとめたルカは、マリアのことをマリヤムと表現することもあります。

27:ダビデ家のヨセフという人のいいなづけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。

28:天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。

主があなたと共におられる。」

「おめでとう。」という言葉は「よろこびなさい。」ということばです。

天と地を創られた方が共におられるというのです。「神が共におられる」というこのことばはキリスト教の歴史ではインマヌエルということばで伝えられ信仰者を勇気づけて来たのです。辛い時、物事がうまくいかない時、苦難の時にも神はわれらと共にいてくださるのだと。

マリアはおとめで、16歳前後でしょうか。ヨセフといいなずけの関係でした。いいなずけは昔はよくあったようです。

この天使からの喜びの知らせにも拘わらず、マリアの心は海の波のように揺れ動きます。これは当然とも思えるのです。

29:マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え

込んだ。「戸惑い」とは、「胸騒ぎがする」そして一体どういうことかと考えこんだのです。これは私たちにも理解できることです。そんなことはありえない、と思います。そのマリアに向かってガブリエルは、

30:すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。

31:あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。

32:その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。

33:彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」と。神の言葉をまっすぐに伝えます。ガブリエルは天使の務めを果たすのです。

「イエス」とは「救い」という意味です。

つまり「マリア、あなたは神の言葉、神の救いの計画により、救い主イエスの母となるのです。」ということばです。ですから「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。」と言えるのです。

でも、マリアは天使に自分の気持ちを正直に伝えていきます。そして、それで良かったのです。

34:マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」

これは確かにその通りです。科学的には考えにくいことです。しかし、天使ガブリエルは必死に、ひたむきにと言っても良いと思いますが、マリアを一途に励まし説得するのです。

「35:天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。」と。

マリア、あなたは、人間の力・能力ではなく、神の力に包まれて子を産むのだ、と。今日的な理解としては、古代は男性中心、男性だけが権力を持っていると考えられていた世界だったのですが、男性という権力によらず神の力によって救い主イエスは生まれたのだと理解する人々もいます。そして天使ガブリエルは「36:あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。」とマリアを励まします。親戚のエリサベトと見なさい、と。「37:神にできないことは何一つない。」のだと。

神の言葉は実現するという事です。神の言葉は、神さまの思い、約束、神さまの計画の事です。神さまの言葉、思いは必ず地上において実現するのです。どんな力も神様さまの働きを阻止することはできないのです。

今、地上で起こっていることがすべて神の思いによるものではないのです。ご存じのように地上には悪の力も強いのです。ですから人は希望を持って忍耐して祈って地上を生きるのです。

しかし神の元では何事も不可能ではない、ということです。神の力は悪の力を超えて行われて行くのです。ですから人は、神さまを信じて希望を持って祈りつつ地上を生きて行くことができるのです。

戸惑い、不安の中にあったマリア、マリウムでしたが、悩みの中で、遂に神さまの言葉、思い、計画、約束を受け入れたのです。このことは神さまの力によってマリアに与えられた信仰と自由から表れたマリアの決断だと思えます。

38:マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」と天使に答えました。そこで、天使は去って行ったのです。

マリアは、神の言葉にしたがうこと、身を献げることを決意したのです。神の力を受け、自分の自由な意思で決意できたのです。

このマリアと共に生涯神は共にいてくださったのです。人の子として生まれてくださった救い主イエスさまの前に、神の言葉、神の思いに従った乙女マリアがいたことを、ここに集ったわたしたち、今日アドベントの日に新たに覚え、マリアの信仰に続けたいと願います。

◆イエスの誕生が予告される

26:六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。

27:ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。

28:天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」

29:マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。

30:すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。

31:あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。

32:その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。

33:彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」

34:マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに。」

35:天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。

36:あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。

37:神にできないことは何一つない。」

38:マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。